

団塊の花道

写真は『中央公論』4月号の特集。足を悪くして、私も「つえつき老人」になった。はやく「つえなし老人」になるように、リハビリに励んできた。もうすこしの辛抱だ。「75歳後をいかに生き抜くか」とあり、自分の問題として読んだ。1976年に堺屋太一が発表した小説『団塊世代』。1947～49年に生まれた約810万人の日本人を指すこの造語は、たちまち広く知られるようになった。第1次ベビブームの団塊世代は、2025年に全員が75歳以上、後期高齢者となる。



写真下は団塊の世代の歩み。年齢は1947年生まれを起点として表記してあるので、1948年生まれの私は1歳ずれる。団塊世代は、戦後の混乱した時代に生まれ、戦争の悲惨さをすこし感じることができた。とにかく子どもが多く、「すし詰め教室」を経験。高度成長からバブル、そしてバブル崩壊から低成長など、日本経済の歩みとともに成長して、歳を重ねてきた。

2025 (令和7)	78歳	団塊の世代が全て後期高齢者に
2015 (平成27)	68歳	団塊の世代が全て前期高齢者に
2008 (平成20)	61歳	リーマン・ショック
2007 (平成19)	60歳	団塊の世代の定年退職が始まる
2000 (平成12)	53歳	介護保険制度スタート
1998 (平成10)	39歳	バブル景気(～1991年)
1977 (昭和52)	30歳	日本の平均寿命が初の世界一に
1973 (昭和48)	26歳	第1次オイルショック
1971 (昭和46)	24歳	第2次ベビブーム(～1974年)
1969 (昭和44)	22歳	東大入田講堂占拠など、学生運動が盛り上がる
1960 (昭和35)	13歳	受験戦争の本格化
1958 (昭和33)	9歳	経済白書が「もはや「戦後」ではない」と記す
1954 (昭和29)	7歳	小学校入学、1学年55%名の「すし詰め教室」状態
1947 (昭和22)	0歳	第1次ベビブーム(～1949年)

※年齢は1947年生まれを起点として表記 協力：中央公論

名古屋で生まれ、親父の転勤で中学1年のときに飛騨高山に転居、高校2年に郡上八幡近くの深戸に転居。転校生としての苦労も味わった。やはり思い出として残るのが、信州大に入学して「学生運動」に参加したこと。2年浪人して大阪市大の大学院生となり、宮本憲一先生のもとで研究したこと。博士課程に進学して結婚したこと。そして名古屋市立女子短大に就職が決まり、教員生活を始めたこと。名古屋市立大との統合により、市大の教員となり、学部長を務めたこと。65歳で定年退職して、5年ほど前に名古屋から大阪に転居したことだ。

さて、私も今秋に75歳になる。定年退職から10年、大阪に転居して5年余りに。75歳からの残された人生をどう過ごしていくか。「持病」を抱えながらも、できるだけ健康を維持していきたい。93歳になる宮本先生を見ていると、少なくともあと10年は、私なりに社会的な活動をしていきたい。たとえ体力が低下してきても、精神面では充実した生活を送りたい。率直に言えば、ボケないように持続的に活動を続けようと考えている。たんに自分のためというより、団塊世代として責任を感じるからだ。先にも書いたように、団塊世代は戦後の混乱から高度成長の時代に、青春時代を過ごしてきた。家族や地域などから、戦争というものを身近に感じることも多かった。

「新しい戦前」が現実味を帯びつつあり、戦争に反対する声を上げ続けなくてはならない。それと大阪で暮らしているので、「維新政治」についてもチェックしていきたい。いろいろ書きたいことはあるが、また歳を重ねるときにレポートすることにしよう。

(2023年5月1日)